

生誕100年“巨匠バーンスタインの芸術”第2回
指揮者/作曲家

プログラム

今年生誕100年に当たる20世紀を代表する大指揮者で作曲家、バーンスタイン特集の第2回目です。1953年ミュージカル「ワンダフル・タウン」が成功して、作曲家としても多忙となったバーンスタインが1954年その合間をぬって別荘に立てこもって作曲したのがセレナードです。ヴァイオリン独奏を伴う協奏曲風の作品で、アイザック・スターンとバーンスタイン自身の指揮で初演されました。賢人たちが愛の諸相について対話するというプラトンの『饗宴』から着想を得たと言われ、5楽章構成の各楽章には登場人物の名が付けられています。近代的な響き、ロマンティックな響き、ジャズ風の響きまで、多彩に変化する独創的な名曲です。「前奏曲、フーガとリフ」はバーンスタインが1949年ウディ・ハーマン楽団のために作曲したビッグバンド作品で、ジャズ色が強いながらもバーンスタインの作曲センスの良さが光る快作です。金管楽器による「前奏曲」、サックスのアンサンブルによる「フーガ」、全員による「リフ」という3部構成。リフというのは、短いフレーズをたたみかけるように反復していきながら、音楽の高揚を高めていく形式で、吹奏楽ではしばしば演奏されています。

バーンスタインは1960年代に世界初のマーラー交響曲全集を完成、晩年までマーラーとの関わりを強く持っていた指揮者でした。晩年はウィーン・フィル、イスラエル・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ、ニューヨーク・フィル等と世界各地でマーラーを演奏、改めてこの大指揮者のマーラーに対する情熱を再確認するところとなりました。今日お聴き頂くのはニューヨーク・フィルとの演奏で、1896年ザルツブルクの湖畔にある避暑地シュタインバッハで完成させた傑作、第3番の最終楽章です。ブラームスの交響曲は1981年～1983年にかけてウィーン・フィルと全集を完成、名盤として高い評価を得ていますが、今日は1988年にルツェルンで録音された演奏です。1885年に完成、第2楽章に教会調のフリギア旋法、第4楽章にバロック時代のパッサカリアを使用するなど、枯淡の味とも言うべきブラームスの最高傑作をバーンスタインの最高の名演奏でお聴きください。

レナード・バーンスタイン (1918～1990):

セレナード(ヴァイオリン独奏、弦楽、ハープと打楽器のための)

第1楽章 パイドロスーパウサニアス 第4楽章 アガトン 第5楽章 アルキビアテス
(第2楽章 アリストファネス 第3楽章 エリュキシマコス 第5楽章 ソクラテスは除く)
ギドン・クレメル(Vn)

レナード・バーンスタイン指揮ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団
(1988.11.14 カーネギーホールでのLive)

クスタフ・マーラー (1860～1911):

交響曲第3番ニ短調 ～第6楽章

レナード・バーンスタイン指揮ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団
(1987.12.1(?) エイヴリー・フィッシャーホールでのLive)

*** 休憩 ***

レナード・バーンスタイン (1918～1990):

“前奏曲、フーガとリフ”

アンドレス・オロスコ=エストラーダ指揮HRビッグバンド
フランクフルト放送交響楽団
(2018.4.13 旧オペラ座、グランドホールでのLive)

ヨハネス・ブラームス (1833～1897):

交響曲第4番ホ短調 ～全曲

レナード・バーンスタイン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(1988.9.8 ルツェルン、クンストハウスでのLive)